

第 18 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和6年11月12日（火）

18時～19時30分

会場：伊那市庁舎5階 501・502会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 会議事項

（1）第17回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ 【資料1】

（2）群馬県立富岡実業高校視察報告 【資料2】

（3）上伊那総合技術新校再編実施計画 【資料3】

（4）その他

4 その他

5 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第18回 上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○印 新規構成員

	区分	氏名	所属等	役職等
1	自治体	○ 宮澤 和徳	辰野町教育委員会	教育長
2		○ 小林 久通	箕輪町教育委員会	教育長
3		田中 俊彦	南箕輪村	副村長
4		○ 清水 閣成	南箕輪村教育委員会	教育長
5		○ 福與 雅寿	伊那市教育委員会	教育長
6		小平 操	駒ヶ根市	副市長
7		加藤 孝志	宮田村教育委員会	教育長
8		片桐 健	飯島町教育委員会	教育長
9		片桐 俊男	中川村教育委員会	教育長
10		唐澤 直樹	上伊那広域連合	事務局長
11	地域	布山 澄	上伊那地域振興局	局長
12	産業界	松井夕起子	辰野町商工会	代表
13		漆戸 豊徳	箕輪町商工会	代表
14		堀井 一政	南箕輪村商工会	副会長
15		山下 政隆	駒ヶ根商工会議所	副会頭
16		向山 賢悟	伊那商工会議所	副会頭
17	同窓会	林 龍太郎	辰野高等学校同窓会	会長
18		小河 節郎	箕輪進修高等学校同窓会	会長
19		清水 満	上伊那農業高等学校同窓会	会長
20		湯澤 英喜	駒ヶ根工業高等学校同窓会	会長
21	PTA	矢澤 弥彦	辰野高等学校PTA	会長
22		岩井 直美	箕輪進修高等学校PTA	副会長
23		若山 冬樹	上伊那農業高等学校PTA	会長
24		坂間 真紀	駒ヶ根工業高等学校PTA	副会長
25	学校関係者	竹松 寿寛	上伊那中学校長会	副会長
26		片桐 広文	上伊那小学校長会	副会長
27		小池 景子	伊那養護学校	校長
28	学識経験者	松島 憲一	国立大学法人信州大学農学部	教授
29		工藤 賢一	南信工科短期大学校	副校長
30	統合対象校 関係者	茶城 啓二	辰野高等学校	校長
31		棚田 美穂	箕輪進修高等学校	校長
32		小池真理子	上伊那農業高等学校	校長
33		福澤 竜彦	駒ヶ根工業高等学校	校長
34		宮澤 奨英	辰野高等学校	生徒会副会長
35		酒井 輝也	箕輪進修高等学校	生徒会長
36		根津 柚希	上伊那農業高等学校	生徒会長
37		小山 将幸	駒ヶ根工業高等学校	生徒会長

【事務局】

学校名	氏名（役職等）
辰野	齋藤 美幸（教頭） 小澤 潤也
箕輪進修	岩田今朝宣（Ⅰ・Ⅱ部教頭） 倉田 誠司（Ⅲ部教頭） 井原浩一郎
上伊那農業	塩原 慎一（教頭） 山下 昌秀 境 久雄 相沢 哲也
駒ヶ根工業	藤田 晶子（教頭） 竹内 浩一 甕 力 白石 敦子

	氏名	所属等	役職等
長野県教育委員会 事務局	佐野浩一郎	高校教育課 高校再編推進室	室長
	原 多恵子	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	原 周一郎	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	内山みのり	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

第17回 上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時・会場	令和6年(2024年)4月30日 18時00分～19時30分 長野県伊那合同庁舎 講堂
出欠席	懇話会構成員(敬称略)(◎座長) 出席者32名 山田 勝己 田中 俊彦 小平 操 笠原 千俊 ◎加藤 孝志 片桐 健 唐澤 直樹 松井夕起子 漆戸 豊徳 堀井 一政 山下 政隆 向山 賢悟 林 龍太郎 小河 節郎 清水 満 湯澤 英喜 矢澤 弥彦 岩井 直美 若山 冬樹 坂間 真紀 小池 景子 松島 憲一 工藤 賢一 布山 澄 茶城 啓二 棚田 美穂 小池眞理子 福澤 竜彦 宮澤 奨英 酒井 輝也 根津 柚希 小山 将幸 欠席者4名 浦野 邦衛 片桐 俊男 竹松 寿寛 片桐 広文
事務局	県教委3名 原(多)主幹指導主事 原(周)主任指導主事 内山主任指導主事 辰野高校2名 齋藤教頭 小澤教諭 箕輪進修高校3名 岩田教頭 倉田教頭 井原教諭 上伊那農業高校3名 塩原教頭 山下教諭 境教諭 相沢教諭 駒ヶ根工業高校4名 藤田教頭 竹内教諭 甕教諭 白石教諭
傍聴者	傍聴7名(オンライン3名)、報道7社
会議事項	(1) 第16回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 今後の検討事項の整理
当日資料	第17回懇話会(資料1～資料3)

主な内容(意見及び発言等、→事務局回答 ◎座長のまとめ)

冒頭において新構成員から自己紹介

今回の懇話会から飯島町、中川村より教育長が構成員として参加。

会議事項について

(1) 第16回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(資料1の説明、質疑、意見聴取)

◎資料1のとおり県のホームページに掲載していただく。

(2) 今年度の検討事項の整理(資料2)

ア 学びのイメージについて

第1期再編校 須坂創成高校の実践について説明

「多様で探究的な学び」を実現するため上伊那地区の特性を活かしてどのような学びが考えられるか検討したい。第1期再編の総合技術新校をさらに進めた「新たな総合技術新校」の姿を目指す。

学科の専門学習とのバランスを考慮しながら従来の産業分野を超え、社会の変化に柔軟に対応する力の育成が可能な学校として上伊那総合技術新校を進めていきたい。

◎皆さんからもご意見をいただいきたい。

イ 施設設備について(資料3)

小諸義塾高校(仮称)の設計について説明

NSD(Nagano School Design)プロジェクトでは、従来の標準的な校舎整備に依らずこれからの時代、これからの学びにふさわしい学校空間の整備を行う。学習空間、生活空間、執務空間、共創空間をイメージして作成。NSDプロジェクトを通じて「学校づくり・ひとづくり・地域づくり」を行う。基本計画の段階から、業者が参加する。必要な施設設備の洗い出しを行う。各種の施策と合わせて、中学生に選んでもらえる学校となるように進めていく。

【質疑】

- ・教育課程、設置学科、生徒募集なども検討していく必要があるが、どのような形でご提案されるのか。
→ この後の「開校年度について」のところで触れさせていただきたい。
- ・NSDは学校の意見を聞いてもらいながら設計していくということでしょうか。
→ プロポーザルでは、学校の要望に応えられる業者を審査する。
- ・子供ファーストとはどのようなことなのか。新校が出来たときなのか、それまでの生徒も含めてなのか。
→ 開校までの時間もあるので、その間の子供たちの学びも保証できるように考えていきたい。
- ・地域から期待される新校であるため、検討過程や検討内容について丁寧に子供たちや保護者にも情報提供をお願いしたい。
→ ご指摘いただいたように考えていきたい。

ウ 開校年度について（資料2）

前回懇話会での確認事項として、校地は上伊那農業高校、学級規模は7学級程度である。ただし、学級数は長野県立高等学校募集定員により前年度に決定する。施設設備が整ったときが開校年度となる。上伊那農業高校は老朽化が進んでおり利用可能かどうかの検討も必要である。現段階で「学びのイメージ」「施設設備」の両面から開校年度を決定することはできないと判断し、今年度6月議会への上程をせず、令和14年度以降早期開校を目指して準備を進めたい。

エ 令和6年度のスケジュール（資料2）

「学び」「施設設備」の両面から検討を進める。懇話会は4回を検討中。18回懇話会：6月～7月、19回懇話会：9月～10月、20回懇話会：11月～12月、21回懇話会：2月～3月。可能であれば他県などへの視察を行い、懇話会で報告する。

校内に委員会（ワーキンググループ）を設置し、それぞれの課題について検討する組織を準備中。

【質疑・意見】

- ・設置学科が決まってくないと教育課程は決まらない。これが遅れると施設設備も遅くなってくたろう。先延ばしにならないようにしていただきたい。
 - 農業、工業、商業の3科の設置が決まっているのみである。第1期再編校からもう一步踏み込んだ形となるよう事務局会等で検討していきたい。先延ばしにならないように検討を進めたい。
- ・工業の子供たちが伊那市まで通わなければならない。通学時間を考えると、上伊那地域の子供たちが飯田OIDE長姫高校の工業科に行くことも考えられる。新校の魅力を掲げられるとよい。
 - ぜひ子供たちが行きたいと思う学校になるよう努めていきたい。
- ・卒業後の就職先、進学先が大切である。学校での学びが進路につながっていくと魅力に繋がる。上伊那は工業が発達しているので高校生の人材に期待している。広く学ぶことが詰込みにならないかと心配している。
 - ◎スチューデントファーストを大切にしていきたい。
- ・工事の関係は担当の方が変わらないようにやっていただきたい。統合して生徒数が増えることによって、登校できない、コミュニケーションが取れない子供たちが通いにくい学校になるのではないかと心配している。施設のようなハード面だけでなく、そのようなソフト面も考えていただきたい。統合して一つになることによって、通学の金銭面や時間の負担が大きくなる。
 - ◎切実な保護者の声だと感じる。事務局として受け止めていただきたい。
- ・部活なども考えると、通学に時間がかかりスケジュール的にハードになってしまうので配慮いただきたい。
- ・ただ学科が増えるだけでなく、進路のことを考えて、どのような学校を目指すのが大切。人数が増えることによって、部室の数が足りなくなるようなことがあるため、部活動についても配慮してほしい。
- ・高校は何のためにあるのかと考えると進路のためだと思う。自分の進路につなげる学校にしたい。
- ・その学校から行くことができる進路先、その学校でしか取れない資格、そういったものがあれば魅力に繋がると思う。
 - 本日、いただいたご意見を大切に進めていきたい。
 - ◎県議会に上程するまでの時間を有効活用し、各学校、事務局で準備を進めていただき、令和14年度以降の早期に開校できるようにしてもらいたい。構成員の皆様には引き続き、ご協力いただきたい。

その他

- (1) 第18回懇話会は、令和6年6月～7月を予定。別途、開催通知が發送されます。
- (2) 新構成員には連絡先記入用紙を受付にご提出をお願いします。

群馬県立 富岡実業高校 視察報告

日程:令和6年6月6日



1



学校概要

●生徒数:約360名、職員数:42名

●設置学科

大学科	小学科
農業	生物生産科
	地域産業科
工業	電子機械科

●入試方法:大学科を越えたくくり募集

2



視察概要

●事務局 8名

- ・高校再編推進室 原(周)主任指導主事
- ・辰野高校 斎藤教頭・小平教諭
- ・箕輪進修高校 岩田教頭
- ・上伊那農業 塩原教頭・山下教諭
- ・駒ヶ根工業 藤田教頭・竹内教諭

●富岡実業高校 3名

- ・須川 校長
- ・中尾 教頭(農業)
- ・井田 教務主任(工業)

3



学校沿革

●大正15年農業高校として設置

●昭和61年 電子機械科 設置
⇒富岡実業高校「富実」

●教育ビジョン

- 子どものより良くなるうとする力を伸ばす
- 平成27年より くくり募集を導入

4



富実の特徴

- 富実の魅力を外部に発信する
→ドローン教育
- 部活動が盛ん
 - ・レスリング
 - ・ハンドボール
- 地域に根付いた学校経営

5



- ・高崎に近いが電車が低い
- ・藤岡の中学生は高崎に進学
↓
富岡地域は地元に残る

6



くくり募集

- ・くくり募集をしないと定員充足が難しい
- ・富実にくれば地域で就職できると地域に認知されている
- ・就職が多く、進学者は少ない
- ・地元へ6割残る
- ・地域に活躍できる場が多い

7



学科選択

- 1年次
 - 「産業社会と人間」3単位
→前期 学科選択用に体験的実習
 - 「農業と環境」または「工業技術基礎」3単位
→後期 「農業と環境」または「工業技術基礎」
 - ※1年次の専門科目は実習のみ

8



学科選択

- 学科選択の希望について
 - ・もともと農業高校のため、農業のイメージ強い
 - ・農業科の希望者が多い
→6月末までに3回の希望調査
→7月終業式までに調整
(工業の魅力を生徒や保護者に伝える)
 - ・部活動をやりたい生徒は、部活動に取り組みやすい学科を選択

9

■ 進路状況 (令和5年度)

	就職			進学			その他	合計
	企業	公務員	自営縁故	大学	短大	専修各種		
生物生産科	15	0	0	8	2	10	0	35
地域産業科	20	0	0	1	5	11	0	37
電子機械科	31	0	0	0	0	7	0	38
人数 (人)	66	0	0	9	7	28	0	110
割合 (%)	60	0	0	8.2	6.4	25.5	0	100.0

10

質疑応答 ～くくりと学科選択～

- ・多くは目的意識を持って入学していない
- ・クラブや学力で入学する生徒多い
- ・3年間楽しい高校生活、「楽しい」学科の選択を求める傾向が主流
- ・農業選択でも地元就職できれば高校生活は楽しい方を選ぶ
- ・「学科選択=猶予期間」地域として魅力に感じられている
- ・工業はきっちりとした印象があり、生徒にとってハードル高い

11

質疑応答 ～スペシャリスト育成～

- ・企業からの工業科特定の求人は少ない
- ・専門性担保のニーズは一部企業
- ・専門性は薄れるが地域のニーズに沿っている
- ・中学生にとって選びやすい学校になっている
- ・生徒は楽しそうに学校生活を送っている
- ・難しい授業内容は敬遠される
- ・学校生活満足度 9割が満足

12

質疑応答 ～地域のニーズ～

- ・地元富岡の生徒を企業は欲している
- ・知識はなくてもいい 生活習慣はきちんとして欲しい
 - 生徒指導に力を入れている
 - 挨拶などはしっかりできる
 - 専門性は企業がつける
- ・地域のニーズに従い地元就職する生徒を育てる

13



- ・生徒「専門内容にもっと早く取り組みたい」
- ・専門性の到達度が低い
 - ⇒くくりを農工別にして欲しい
- ・1年次後半、専門科目の授業なして実習は厳しい
 - 職員・生徒から、こういった意見も聞こえてくる

14

まとめ

- ・多くの中学生を集めるため、大学科を越えたくり募集を採用している
- ・入学後の生徒の満足度は高く、地域のニーズとマッチしている
- ・専門性を担保した生徒のニーズは一部企業にある
- ・電子機械科は専門性の到達度が低いため、専門的知識を身に付けたいと考えている生徒には物足りなさがある
- ・2～3年次の学科間連携はない

15



ご清聴ありがとうございました。

16

上伊那総合技術新校の学校像のイメージ

自己を磨き、未来をデザインできる力を育てる高校

育てる生徒像

- 上伊那で学び、**地域・社会を元気に**できるひと
- 専門性・社会性や人間力を育み、**地域や自分自身の未来をデザイン**できるひと
- 多様な人々との協働を通して、**主体的に行動し、学び続ける**ことができるひと
- 幅広い視野や、多様な価値観を持ち、**学びを活かして、社会に貢献**できるひと

目指す学校像

- 専門性を磨くとともに、学科の枠を越えた農工商の連携により、**新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献**できる学校
- 多様な生徒が「生き生き」と生活し、個人や社会の「ウェルビーイング*」を実現できる学校
- 生徒が学んだことを活かし、自分自身の将来と地域・社会の未来を**創造**できる学校
- 上伊那の資源を学びや体験に活かし、協働的な学び、個別最適な学びを通して、生徒が**成長**できる学校

*身体的・精神的・社会的によい状態にあること

多様で探究的な学び

総合技術高校で拓く上伊那の未来

農業

動植物の命や自然環境を通して、
食料生産や環境保全を学ぶ

〔野菜・果樹・植物・動物・フード
アグリ・里山・グローバル〕

商業

経済活動の実践を通して、
ビジネスに必要な知識・技術を学ぶ

〔マーケティング・流通
会計・まちづくり・起業〕

工業

ものづくりを通して、
地域・社会を支える産業技術を学ぶ

〔情報技術・機械・電気〕

学びの連携プラットフォーム

興味・関心によって、他学科・コースの学びを選択し、専門性の幅を広げるシステム

ミックスホームルーム
3科融合したホームルーム

新たな単位認定
学校外学修の単位認定
学校間連携による単位認定等

3科協働を支える施設
プレゼンルーム・クリエイティブラボ（協働実習室）
ウェルビーイングルーム（協働研究室）等

○学科の枠を越えた学び

学科の枠を超えた学びの実践により、「自然・環境」「産業・経済」「人間・生活」等の調和のとれた持続可能な社会の実現に貢献する資質・能力の育成

○みらいの産業界のづくり手の育成

様々な課題を理解し、イノベーション創出に貢献できる知識と行動力、汎用的・多面的な職業能力を育む

- 3科連携により、1年次から地域で探究し、3年次には地域に発信する課題研究
- DX時代の専門教育（AI・データサイエンス・プログラミング・メタバース・ドローン等）
- 経験や体験を重ねた実践力の向上を目指す専門高校ならではのキャリア教育
- 専門高校での学びを最大限に活かした資格・検定への挑戦

学びを支えるデュアルプラットフォーム

地域連携コーディネーターによる連携

デュアルシステムの構築

上伊那地域共学共創プラットフォーム

地域活性化や課題解決、さらにはイノベーション創出に貢献できる生徒を上伊那で育てるシステム

市町村

上伊那広域連合

信州大学

南信工科短期大学

産業界

青年海外協力隊(JICA駒ヶ根)

各種学校(幼保小中高大特支)

自己を磨き、みらいをデザインできる力を育てる高校

育てる生徒像

- 専門性・社会性や人間力を育み、地域や自分自身のみらいをデザインできるひと
- 上伊那で学び、地域・社会を元気にできるひと
- 多様な人々との協働を通して、主体的に行動し、学び続けることができるひと
- 幅広い視野や、多様な価値観を持ち、学びを活かして、社会に貢献できるひと

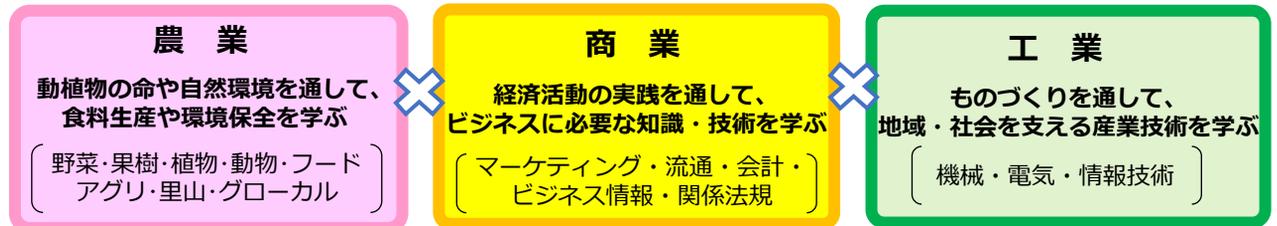
目指す学校像

- 専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた農工商の連携により、新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献できる学校
- 上伊那の資源を学びや体験に活かし、協働的な学び、個別最適な学びを通して、生徒が成長できる学校
- 多様な生徒が「生き生き」と生活し、個人や社会の「ウェルビーイング*」を実現できる学校
- 生徒が学んだことを活かし、自分自身の将来と地域・社会のみらいを創造できる学校

*身体的・精神的・社会的によい状態にあること

多様で探究的な学び

総合技術高校で拓く上伊那のみらい



学びの連携プラットフォーム

ミックスホームルーム
3科融合したクラス編成

新たな単位認定
学校外学習の単位認定
学校間連携による単位認定 等

3科協働を支える施設
プレゼンルーム クリエイティブラボ (協働実習室)
ウェルビーイングルーム (魅力発信研究室) 等

○学科の枠を超えた学び

- ・学科の枠を超えた学びの実践により「自然・環境」「産業・経済」「人間・生活」等、調和のとれた、持続可能な社会の実現に貢献できる資質・能力を育成する
- ・学科の枠を超えた学びを通して人間性を高め、自らみらいをデザインできる力を育てる

○みらいの産業界のつくり手の育成

- ・様々な課題を理解し、イノベーション創出に貢献できる知識と行動力、汎用的・多面的な職業能力を育む

○専門性を高め、多様な選択科目から、個々に応じた探究的な学びができるしくみ

○6次産業について高校生が考える農工商の融合した学び

○DX時代に対応できる共通した学び (AI・データサイエンス・プログラミング・メタバース・ドローン等)

○上伊那地域全域を舞台に、探究し、発信できる地域連携

○上伊那総合技術新校での学びを最大限に活かした資格・検定への挑戦

地域連携協働室を創設し、地域連携コーディネーターを配置

上伊那地域共学共創プラットフォーム

地域活性化や課題解決、イノベーションの創出に貢献できる生徒を上伊那地域全域で育てるシステム

市町村

上伊那広域連合

信州大学

南信工科短期大学校

青年海外協力隊(JICA駒ヶ根)

各種学校 (幼保小中高大特支)

産業界